

製品名: ATF-1 (リン酸化 Ser63) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04272**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	29kDa

抗原情報

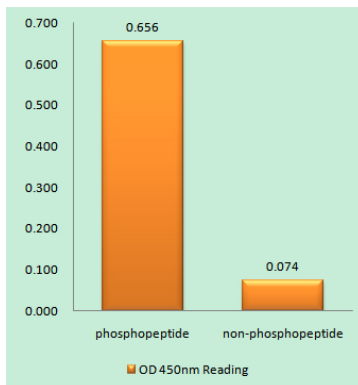
遺伝子名	ATF1
別名	ATF1; Cyclic AMP-dependent transcription factor ATF-1; cAMP-dependent transcription factor ATF-1; Activating transcription factor 1; Protein TREB36
遺伝子 ID	466.0
SwissProt ID	P18846
免疫原	抗血清は、ヒト ATF1 の Ser63 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

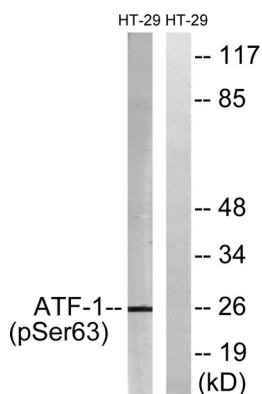
活性化転写因子1 (ATF1) ホモサピエンス この遺伝子は、ATFサブファミリーおよびbZIP (塩基領域ロイシンジッパー) ファミリーに属する活性化転写因子をコードしています。この遺伝子は、成長、生存、その他の細胞活動に関連する下流の標的遺伝子の発現を制御することで、細胞の生理学的プロセスに影響を与えます。このタンパク質は、キナーゼ誘導ドメインのセリン 63が、セリン/スレオニンキナーゼ、cAMP 依存性プロテインキナーゼ A、カルモジュリン依存性プロテインキナーゼ I/II、マイトジェンおよびストレス活性化プロテインキナーゼ、サイクリン依存性キナーゼ 3 (cdk-3) によってリン酸化されます。このリン酸化は、転写活性化および転写活性を増強し、細胞の形質転換を促進します。この遺伝子と 16 番染色体の FUS または 22 番染色体の EWSR1 との転座融合により、血管腫様線維性組織球腫および明細胞肉腫においてキメラタンパク質が産生される。この遺伝子は、染色体異常を伴う ATF1 遺伝子が血管腫様線維性組織球腫 (AFH) [MIM:612160]と関連している[MIM:612160]。FUS との転座 t(12;16)(q13;p11.2)は、キメラ ATF1/FUS タンパク質を産生する。、疾患： ATF1 遺伝子が血管腫様線維性組織球腫 (AFH) [MIM:612160]と関連している [MIM:612160]。EWSR1 との転座 t(12;22)(q13;q12)は、キメラ ATF1/EWSR1 タンパク質を生成する。、機能： このタンパク質は、多くのウイルスおよび細胞プロモーターに存在する配列である cAMP 応答配列 (CRE) (コンセンサス配列: 5'-GTGACGT[AC][AG]-3') に結合し、HTLV-I の Tax 応答配列 (TRE) に結合し、PKA 誘導による CRE レポーター遺伝子の刺激を媒介する。、類似性： bZIP ファミリーに属する。ATF サブファミリー。、類似性： 1つの bZIP ドメインを含む。、類似性： 1つの KID (キナーゼ誘導性) ドメインを含む。、サブユニット： 二量体として DNA に結合する。、

研究分野

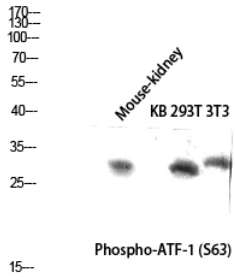
画像データ



ATF1 (リン酸化 Ser63) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



インスリン 0.01U/ML を 15 分間処理した HT29 細胞のライセートを ATF1 (リン酸化 Ser63) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 ATF-1 (S63) 抗体を用いたマウス腎臓 KB 293T 3T3 の溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。